

通級学級では自立活動を学習する、というのが原則でした。ですが現実的には「勉強が嫌いだ。」「教室や教師や友達が嫌いだ。」という理由で活用する生徒が多いです。

勉強が嫌いでも、教室が楽しい生徒は通級に通ってきません。

通級に関心を持ってきたときの聞き取りを参考にすると グラフのようになっています。

「勉強が理解できない」「教室で落ち着けない」「意欲がわかない」などが多くなっています。その結果「通級での時間が欲しい」「助けが欲しい」などの救助要求になっていると思います。

苦手がある生徒をどう支援していくか？

という所が大きなカギになっていました。

苦手なのは何なのか？という事を突き詰めました。

焦らず、ゆっくり、苦手を突き詰め、長期的に聞き取りを行うとチェックシートでは見えない要素が出てきました。生徒によって苦手なものがあります。大きく分けると 学習が苦手なのか？ 友達や先生が苦手なのか？と分類できました。

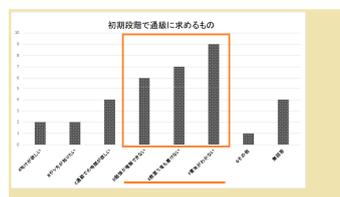
友達や先生が苦手な場合 長期的には、友達が苦手な部分は解消できることが少ないようです。

これは仮説です。おそらく教師は意識して本人に対応できるでしょうが、友達はそうはいかない、特に女子は「お互いに嫌いだ」というケースは完全な関係改善は困難でした。

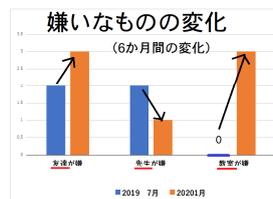
長期的には、友達、先生が嫌い 学級・学校が嫌い と進行していくケースがあります。

このグラフがそうです。

特に情緒に支援が必要な生徒では、嫌いな人



通級のチェックシートより



チェックシート 学習記録

への思いを改善することが難しく、嫌いな範囲が教室へと拡大していくことが見られました。それで最後には「教室に入りたくない」または「人のいる教室に入れない」状況が生まれているようです。

情緒に支援が必要な生徒は、人への嫌悪感を改善するのが難しかったです。

一番の効果対応は「嫌い」「苦手」のごく初期段階で対応するのが良いかと思います。

学級担任は「まだ大丈夫」と対処せず、早めに学年や学校に提起する動きが肝心と思います。

「教室にいる人が嫌い、教室が嫌い」にまで進むと対応は難しかったです。

END